



41号の主な内容

- ハビタットひろば
- 国連ハビタット福岡本部スタディツアー
- 2014年度総会・懇親会開催
- ハビタット職員インタビュー
- パオラ・ペンナネン(フィンランド)さん
- 今後のスケジュール

第41号
<http://cnhf.web.fc2.com>

■ハビタットひろば



■第18回 2014年2月1日(土) 14:00~15:00
 アクロス福岡 3F のこくさいひろばにてハビタットひろばが開催され国連ハビタット福岡本部の人間居住専門官パオラ・ペンナネン(フィンランド)さんより、「ネパールにおける Green Home プロジェクト」についてのお話がありました。

ヒマラヤに位置するネパールは、人口約2650万人で、一人当たりのGDPが619ドル(2011年)という、農業国です。

近年首都カトマンズや他地域で急激に都市化が進み、その影響により、①気候変動 ②水害・地震・災害の増加等の社会問題が発生しました。また、③貧困も依然としてネパールの深刻な問題です。これら諸問題に対応すべく、国連ハビタットでは本プロジェクトを遂行しています。具体的には、①持続可能な方向へ都市政府に対し政策と法整備の手助け②中小企業の社員能力の向上や、市場評価への手助けをし、雇用の増加につなげる ③EUやアジアの成功例を参考に、環境展を開催するなどして、地元民の知識と環境に対する意識の向上を図っています。②において、特に住宅関連産業に力を入れています。住宅産業は、カトマンズ地域における主要な産業ですが、同時に環境汚染の原因ともなっているからです。国連ハビタットはこの分野に働きかけ、従事者の環境に対する知識と能力の向上を図り、また、より環境に優しい住宅機材を使用してもらうよう活動しています。



私はこの度初めて本催しに参加したのですが、参加者の方々の活発な意見交換の様子が印象に残りました。個人的な印象として、環境ビジネスを成功させることは簡単ではないと思っています。個人レベルで商売において利益を上げるには、小売りで「多く売る」必要があり、多く売るには、古いものは捨てるという「持続可能:サステナブル」とは対照的な考え方の下にあるからです。環境汚染・貧困という2つの問題の中で生活している住民の方々が両方

の問題改善に対する意識を高めるためには、民間レベルでの意識改革が必要です。その点で、役所への働きかけの他に、地元の中小企業や住民の方々へも寄り添っていく本プロジェクトは大変有意義なものであると感じました。本当の貧困を経験したことのない私には、想像することしかできませんが、今回、このような現地の状況と、それに対する国連ハビタットの活動を知ることができ大変勉強になりました。現地の人々の生活が、改善されることを願っています。(江藤美紗)

■第19回 2014年4月1日(火) 18:30~19:30



国連ハビタット福岡本部長の深澤良信さんが「フィリピン:大型台風被災地における国連ハビタットの住宅再建を通じた生活再建事業」について講演をしました。

2013年11月8日にフィリピンを襲った大型台風ヨランダによって、現地は深刻な被害を受けました。6000人以上の死亡、110万戸の損壊、

100以上の町の破壊、100以上の町の破壊などです。60カ国以上が援助をしています。国連ハビタットも現地のハビタット事務所を使い、住宅再建を通じた生活再建事業を促進しています。

タクロバン市等の復旧、復興計画を作る支援を行いました。そこでは、土地利用の見直し技術支援、市民参加型計画策定支援、復旧計画、実行方策の具体化支援などです。

フィリピン中央政府への支援では、復旧計画ガイドライン作成支援、復旧計画に関する市・州・政府職員向けトレーニング、住宅関連省庁支援を行いました。

パナイ島の住宅再建支援では、日本政府の2.5億円支援を使い、災害弱者を対象にトイレ付き住宅610戸の再建を支援しました。また、被災2000軒にアドバイスを行いました。20コミュニティのインフラ整備も行いました。250人の職工、大工を訓練指導することも行いました。その時に、フィリピン政府に「住民主体(Peoples' process)」のアプローチを用いた政策の支援を行いました。「住民主体」の政策を用いると、①30%コスト削減ができる、②住民に現金を支給できる、③建設作業の進行が速い、④コミュニティの結束力が高まる、⑤コミュニティへの説明責任と透明性が確保できるメリットがあります。

以上、国連ハビタットでは、①個別のプロジェクトを手始めに、国レベルの政策への反映と全国展開を目指しています、②災害復旧過程を通じて、災害に強く、持続可能な街づくり、地域づくりを目指しています。

深澤福岡本部長の講演は、大変熱意のこもった講演であり、国連ハビタットの活動状況が詳しく語られよく分かりました。質疑応答も活発に行われました。大変有意義な講演会でした。(佐竹芳郎)



■国連ハビタット福岡本部スタディツアー

3月18日(火)アクロス福岡8Fの国連ハビタット福岡本部に16名の中高大学生に集まっていたいただき、成田さんのコーディネートで、第2回のスタディツアーを実施しました。参加した皆さんに感想と将来の夢について語ってもらいました。



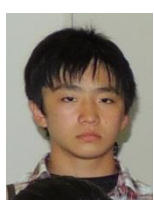
宮崎柊人(みやざきしゅうと)ラ・サール学園高校1年



僕は幼い頃から、世界が平和で、みんながHAPPYだといいな。と思ってきました。いろいろなボランティア活動をする中で、今回、国連ハビタット訪問ツアーに参加させていただき、改めて世界中の人々が安心・安全に暮らせることの大切さを考えることができました。又、志の高い先輩やツアーに参加した仲間にも出逢えました。自分には何ができるのか、何をすればいいのかを考えるいい機会となりました。

僕は将来、医師となり、M.S.F(国境なき医師団)に参加します。そして、世界平和に貢献する人間になります。

古川寛大(ふるかわひろと)東福岡高校1年



自分は国連ハビタット福岡本部スタディツアーに参加して、国連は知っていたけれどハビタットは知りませんでした。しかし実際に話を聞いてみるとハビタットの重要性や活動などがよく分かりました。またオリエンテーションでは実際に自分達が現場に行って復興の計画を立てるという内容で簡単なと始めは思いましたがやってみるとグループみんなから色々な意見が出てかなり話し合いになりました。国連ハビタットの活動の大きさが改めてよく分かりました。

自分の将来の夢は、パイロットです。パイロットになって沢山の国を訪れ、その訪れた国で少しでも困っている人達に支援をしたいです。そのために人助けが出来るような強い人間になれるよう努力したいです。

和田紗也加(わださやか)福岡雙葉高等学校2年



今回のツアーへ参加したのは、以前から私が興味を持っていた世界の貧困問題と向き合う、この国連ハビタットという機関に魅力を感じたからです。今回職員の方からのお話を伺って私が最も印象的だったのは、People's Processという考え方です。被災地の方々自身に町を立て直して頂くというシンプルなアイデアで、より持続可能な町を造り、質の向上、コストの削減など、様々なメリットが生まれていったことに驚きました。問題と真剣に向き合う職員の方々の姿に感動するとともに、私も見習いたいと思いました。

私の将来の夢はまだ1つに定まっていませんが、経済的な理由で苦しむ方々を助ける事が出来る人になりたいです。また言語を学ぶことに興味があるので、多言語が活用できる職業に就きたいです。

吉田璃央(よしだりお)筑紫女学園高校3年



国連は学生が近づくことができる場所ではないと思っていただけ、今回のような機会を設けていただいたおかげで、国連ではどのような仕事をするのが分かりました。”恵まれている人が困っている人を助ける”ことで世界の平和につながることを、今回のワークショップを通じた学びました。

私は将来過去・現在にあって戦争や紛争を正確に国民に伝え、解決策を国民自らが考えていける機会を作れるジャーナリストになりたいです。具体的には映像ビデオを作り、視聴者が目で観ることで自国の安全保障などを考えていける社会を築いていきたいです。今回ハビタットで学んだ”他者のために””自分が尽くす”ということ、これからも心に置いて、自分の志に向けて頑張っていこうと思います。

寺側紗矢(てらそばさや)筑紫女学園高校3年



私は前からボランティアに興味があったので、今回のイベントに参加させていただけました。ハビタットについては「国連の機関である」という程度しか知らず、実際どのような活動をしているか全く知らなかったのですが、とても分かりやすく説明して下さい、参加してからしか分からないことも多々ありました。

私は大学生になったらボランティアや留学などに積極的に参加し、出来るだけ多くの経験をしたと思っていましたが、その想いが参加したことでますます強くなり、今回参加して本当によかったと思います。またこのような機会があればぜひ参加したいです。

星優花(ほしゆうか)筑陽学園高校3年



私は、今回訪問ツアーに参加させていただく前までは、正直、「国連ハビタット」という国連機関が福岡にあるということを知りませんでした。しかし、訪問ツアーに参加して、国連ハビタットは発展途上国で生活する人々の居住などに関する様々な問題に取り組んでいる機関であるということを知ることができました。また、このような活動に興味がある私にとって今回の訪問ツアーは、先進国である日本が、アジアの玄関である福岡が、すべき活動というのはこういうものなのだなという発見もでき、いろいろなことを考えるきっかけになりました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

私は、現在、英文法を気にしながら話すあまり海外の人とコミュニケーションを取ろうとしない日本人が多いように思います。しかし世界と繋がる為には英語でコミュニケーションをとることは不可欠です。

だから将来は、生きた英語を教える生きた英語の先生になりたいと思っています。

綾部美希(あやべみき)筑陽学園高校3年



今回、この国連ハビタットに参加させていただいたことで、参加前より自分の視野を広げることができたと思います。世界には恵まれない人がたくさんいるのは前から知っていましたが、実際に現地の写真をみたり、ゲームの中でどうすれば今の村の現状を改善できるかなど、普段の生活の中ではなかなか考えることのないことまで考えさせていただいたいい機会になりました。自分と同じ年の参加者の人も、とても具体的な夢を持っていて、はじめての場なのにすごくわかりやすく、はきはきと自分の夢を語っているのを見て、かなり刺激されました。色んな人の話を聞いて視野を広げることができ、自分の将来の夢の再確認もできたので、参加して本当によかったです。

私の将来の夢は、中学校の英語の教員になることです。

中学校の教員といってもただの教員ではなく、塾の先生に負けない、生徒から本当に信頼された教員になることが目標です。中学時代、家庭の事情で塾に通うことができず、そんな状況の中で絶対に公立高校に入学しなければならない友人がいました。しかし、私の受験学区は福岡県の中でも激戦区と呼ばれていたため、私の中学校でも多くの人が塾に通っていたこともあり、学校側が塾に任せっきりの雰囲気がありました。しかし、それは絶対におかしいことだと思うし、あってはならないことです。結局その友人は、自分の実力よりかなりランクの下の公立高校に入学してしまいました。学校側が塾に通えない生徒にも、塾に通う生徒と同じようにしっかりと対策をしていればその友人の未来も絶対に違っていたはずで、義務教育である以上、生徒の将来のために学校の教師がサポートするのが本来の学校のあるべき姿だと思っています。私はまだまだ未熟ですが、広島大学の教育学部に行って、イギリスに留学し、生の英語を学んで、クラス全員に英語を好きになってもらうことも目標です。文法ももちろんですが、生きた英語で楽しく英会話をし、海外の魅力にも興味を持ってもらえるように指導していきたいと思っています。

池田 凪保（いけだ なぎほ） 筑陽学園高校 3年



私はハピタットの存在をこの間の集会で初めて知りました。国連の他の機関のようにいろいろな国のお手伝いをする機関かな？と思っていたのですが、イメージと違って、その国の人々が主体になっている活動内容には驚いたし、なるほどなあ！とも思いました。グループワークは細かい設定もあって難しかったけど達成感もあって楽しかったです。私の夢は大学で心理学の勉強をすることです。そしてその知識を生かすことです。自分だけの力ではどこまで出来るかは分かりませんが、災害がおきた地域の方や、1人で悩みを抱え込んでいる人を少しでも元気づけたいと思っています。

貞松 陽菜（さだまつ はるな） 筑紫女学園高校 3年



私は以前から、国連の発展途上国での活動に興味があり、今回実際に訪れてみて、その活動をより身近に感じました。今回のツアーで印象的だったのは、ワークショップをしたときのことです。ある村のまちづくりを村人になって考えるという内容でした。実際の活動でも、支援する側だけでなく、村の人同士で話し合いをしてもらう理由がよく分かりました。自分たちで村の設計を考えるとお互いが納得した上で生活することができるからです。私は将来国際機関で働き、世界に貢献できる人になりたいと思っています。今回学んだことをこれからの活動に生かしていきたいです。

住野 博史（すみの ひろし） 上智大学 1年



国連機関を訪問するのは初めてだったが、とても有意義で楽しい時間を過ごせた。ハピタットは貧困地域の村落の再建に携わっているというが、そこに住む現地住民自らの手によって村を再建させるという発想が非常に素晴らしいと感じた。私が今までずっと住んできた福岡の街にこんな素晴らしいものがあるのかと再認識する良い機会となった。

私はこの春から福岡を離れ、上智大学総合グローバル学部の1期生として日中間の相互理解に努めていける人物になりたいと考えている。

松崎 拓哉（まつざき たくや） 熊本大学 1年



いままで国連に関してあまり興味がなく、ハピタットの存在も知りませんでした。今回のツアーで、同世代の人々がいかに国連に関心があるかを知り、自分ももっと学ぶ必要があると実感しました。

自分の将来の夢は、世界に通用する医師になることです。分野はまだ確定していませんが、国際的な活動をしたいので、もし可能であれば、国連と関連した仕事をしたいです。まだまだ、時間はかか

りますが、大学で様々なことを学び、将来につなげて行きたいです。

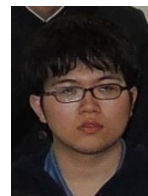
山口 有嬉（やまぐち ゆき） 中村学園大学 2年



今まで、「国連」というと先進国が発展途上国に対して、インフラ整備や食糧供給を行っているというイメージがあった。しかし、実際は援助をしているのではなく、自立を促す活動をしていることが分かった。具体的には、村の住居環境や公共施設の建設地などを村民が決めることで、その後の不満も軽減できるようにしていた。

私は将来、おかしの新商品開発に関わりたと思っていたが、このハピタット訪問を終えて、新しいモノや家を手にする人に向けて、日本のインテリアなどの装飾品を提案することも面白いだろうと考えるようになった。

田口 直樹（たぐち なおき） 純真学園大学 看護学科 4年



スタディツアーに参加させて頂いてよかったことは主に3つあります。まずハピタットという国連機関がどのような活動をしているのかという概要を知ることができたこと。次に高校生や大学生の夢を聞くことができたこと。そして、ワークショップでリーダーシップや仲間での話し合いに参加できたこと。これらにより私の視野はさらに広がりました。

私の夢は海外で看護師として働くことです。国境なき医師団やボランティア、アメリカで働くこともしてみたい。今は周囲から看護師の資質がないとか、なれないとかいわれていますが、これは私の夢であり人生。周りの向上心や夢を持つ若い世代の人たちと切磋琢磨して、私なりの看護をして人に少しでも変化をもたらすことができると考えています。

久保 山雄介（くぼ やまゆうすけ） 九州大学医学部 4年



今回初めて国連ハピタット訪問ツアーに参加させていただきました。最初に、国連ハピタットの具体的な活動についての説明を受けた後に国連ハピタットの活動を学ぶワークショップを行いました。ワークショップ形式にすることで、参加者皆で身をもって疑似体験をすることができとても有意義でした。

現在、医学部の5年生なので、医師を目指しているのですが、僕らが医者になるころにはグローバル化の波は必ず日本の医療にも大きな影響を及ぼすと思うので、広い視野を持った医師になりたいです。

土屋 裕子（つちや ゆうこ） 福岡雙葉高校 3年



国連機関についてあまり具体的なイメージが出来ていざいざでしたが、実際に行ってみて国連がより身近に感じられました。また、私が生まれ育った福岡に国連の機関があることを誇りに思いました。素晴らしい機会に巡り会うことが出来ました。

私の将来の夢は、世界中の女性の権利をあげるための活動をすることです。イスラム教の国家においての活動も行いたいです。女性に対しての社会的地位が日本においても世界においても正しくあると思えないからです。



■2014 年度総会・懇親会開催

2014年2月19日(水)、ハビタット福岡市民の会の2014年度総会が、アクロス福岡地下2階のグランチャイナにて開催されました。

総会では、第1号議案の2013年度活動報告、第2号議案の会計報告、第3号議案の2014年度活動計画、第4号議案の委員改選がそれぞれ承認されました。

○2013 年度活動報告

毎月の定例会、ニュースレターの年3回発行、ハートフルフェスタや地球市民どんたくへの出展、国連ハビタット福岡本部の行事への参加や交流会などの他にケニアスタディツアーや高校生による国連ハビタット福岡本部訪問ツアーを実施しました。

○2013 年度会計報告

＜収入の部＞	
前期繰越し	174,618 円
会費収入	30,000 円
支援・寄付金	20,810 円
収入合計	225,428 円
＜支出の部＞	
ニュースレター発行費	29,570 円
FUKUNET年会費	2,500 円
市民どんたく負担金	2,000 円
切手・郵便振替手数料他	38,042 円
支出合計	72,112 円
＜次期繰越し＞	153,316 円

○2014 年度活動計画

定例会を毎月原則として第3水曜日に実施
 ニュースレターを例年通り4月、8月、12月に発行
 15周年記念イベント開催(7月予定)
 ハートフルフェスタに出展予定(10月)
 地球市民どんたくに出展予定(11月)
 国連ハビタット福岡本部の行事への参加
 国連ハビタット福岡本部との交流会の実施などを計画。

○2014 年度の運営組織

代表 牟田慎一郎
 副代表 佐竹芳郎
 事務局長 野田修司
 会計 山前隆
 監事 島祐二郎
 HP担当 前田直樹
 イベント担当 中川雅文
 運営委員 荒田雅子、井上良子、江藤美紗、大坪優美子
 (50音順) 門畑ゆみ子、古賀慎一郎、山口明巳

交流会には、国連ハビタット福岡本部からラリス・ランカティレケ(国連ハビタット 上級人間居住専門官)が忙しい業務の合間をぬってご参加いただきました。また、大好評の高校生による国連ハビタット福岡本部訪問ツアーを大学生や中学生にも拡大しようという話や、2014年はハビタット福岡市民の会にとって創設15年の節目となるため、記念イベントを実施したいという話などができました。(野田修司)

編集後記

今年も一番過ごしやすい季節になりましたね！先日の第2回の国連ハビタットスタディツアーに参加し、みなさんの夢を聞いてほんとうに感動しました。日本の若者たちに勇気をもらいました。ぜひ皆さんに彼らの夢を聞いてもらいたいと今回特集した次第です。今後も続けて企画していきたいと思っておりますので、お知り合いの方々にぜひご案内ください。また、ハビタット福岡市民の会は、今年15周年になります。これを記念して、シンポジウムなども企画していきますので、ご協力ご参加をお願いします。(牟田)

■ハビタット職員インタビュー

今回は Human Settlements Officer でフィンランド中南部の人口2万人町Kiuruvesi 出身のパオラ・ペンナネン(Paula Pennanen)さんにインタビューしました。

国連ハビタットでの仕事は、開発プログラムのサポートで、ソマリア、マラウイ、マレーシア等を担当しています。

フィンランドで有名な日本人は、私が音楽をしているせいかなオノ・ヨーコさんです。

日本は大好きで、現在1年8か月になります。日本人は、とても礼儀正しく尊敬もしています。あと伝統行事が多いですね。節分は深い意味はよくは分からないけれど、鬼や豆まきはとても楽しそうです。

今までに行った国は61ヶ国で東南アジアが気に入っています。タイ、インドネシアといったトロピカルな雰囲気がいいですね。あと、アフリカのサファリツアーも感激しました。

福岡で気に入ってる場所は、海の中道、百道浜で、海の中道はフェリーからの眺めがよいですね。

趣味は音楽、写真、スキーなどで音楽はギターを弾きますしビートルズが好きです。好きなスポーツはスキーで、北海道に行った際にスキーをしました。フィンランドではノルディックスキーが盛んです。

好きな日本の食べ物はシーフード、とりわけエビ類が好きです。あと、日本茶、ラーメン、お鮎も好きです。お鮎はワサビもOKですよ！



6歳と3歳の女の子の子育てをしながらバリバリ仕事をされているパオラさん。今後のご活躍を期待しています。

■今後のスケジュール

5月21日(水) 19:00~21:00 定例会
 6月1日(日) 14:00~15:00 ハビタットひろば
 6月18日(水) 19:00~21:00 定例会
 7月16日(水) 19:00~21:00 定例会
 7月26日(土) 15周年記念行事
 8月1日(金) 14:00~15:00 ハビタットひろば
 8月20日(水) ニュースレター 42号発行



事務局・お問い合わせは

郵便物のあて先は：
 〒838-0134 小郡市下西郷坂 1493 牟田慎一郎宛
 お問い合わせは：
 TEL：090-6770-2481(牟田)
 FAX：0942-41-2080
 E-mail：muta@ktarn.or.jp
 Facebook：
 HomePage：http://cnhf.web.fc2.com

